

令和6年度

関係人口創出・拡大のための対流促進事業
(中間支援組織の提案型モデル事業)

事業の実施結果
(概要)

団体名	合同会社NOTONO
採択テーマ	農業遺産
事業名	「能登の里山里海」の暮らし・文化を繋ぐ“木こりワーケーション”

- ・世界農業遺産に認定される「能登の里山里海」を舞台に、そこで息づく暮らし・文化を未来に継承するために活動する木こり衆に焦点を当てた木こりワークショップや情報発信イベントを通じて、能登町の関係人口を創出した。
- ・木こり衆が林業と向き合う姿勢を通して、彼らのファンになり継続的に能登を訪問したいと思ってもらうサイクル作りをポイントに事業を実施した。

1. 取組の目的

- ・石川県能登町は、「能登の里山里海」として日本で初めて世界農業遺産に認定されるなど、風光明媚な景色と、祭り文化を中心とした暮らしが今も続く地域であり、この価値をより多くの都市部人材に認知してもらうことを目的とする。
- ・あわせて能登町内で特殊伐採を通して林業に向き合う木こり衆“GOEN”の魅力を発信してファンコミュニティ形成を目指す。

2. 取組の概要

- ・都内でハイブリット形式での情報発信イベントを開催し、能登を身近に感じてもらう機会を創出した。
- ・木こりワークショップを2回開催して町内への人流を創出した。

3. 取組の成果・地域への影響

【情報発信イベント】

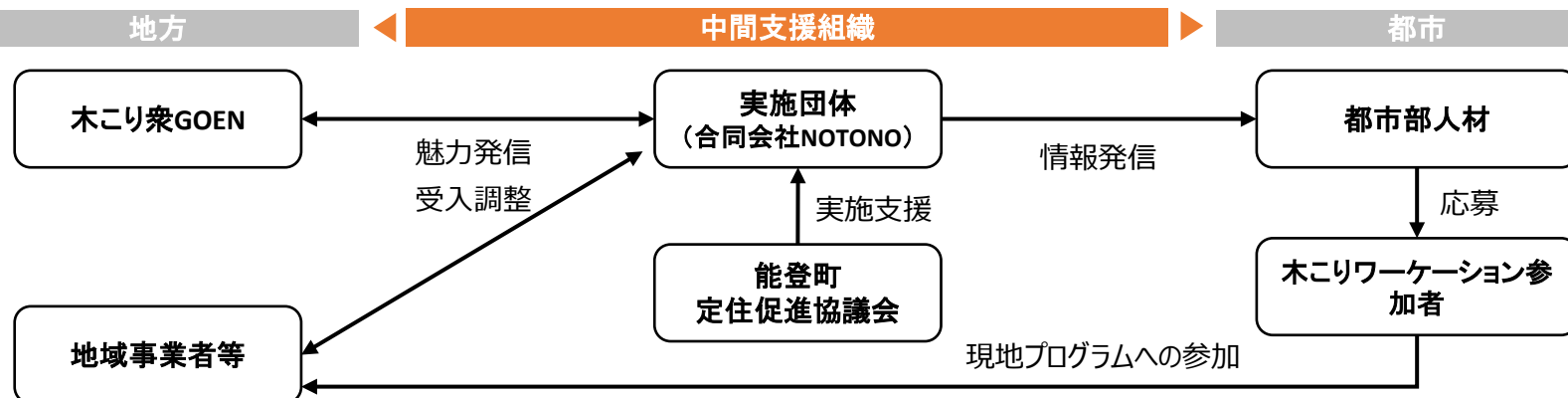
- ・2024年8月28日に東京八重洲にてハイブリット形式での情報発信イベントを開催し、平日の夜にもかかわらず都市部人材30名が参加し、能登の被災情報や林業の魅力発信を実施した。

【木こりワークショップ】

- ・2024年9月と11月の計2回のイベントを開催し、合計8名の都市部人材が参加した。林業作業の見学や貢献活動を行いながら地域住民との関係構築の機会を提供し、事後アンケートでは平均満足度92%の回答を得た。

(例)

事業スキーム



1. 情報発信イベントの実施

概要

- 2024年8月28日（水）にPOTLUCK YAESU（東京都中央区）にて情報発信イベントを開催した。
- 同年9月及び11月に開催予定の「木こりワーケーション」への参加者を募集するとともに、能登の飲食を販売しながら能登半島地震から8ヶ月弱が経過した能登町の現状の発信や、本事業の軸である能登町の木こり衆“GOEN”のオンライン参加による魅力の発信を目的としたプログラムを提供した。

成果

- 参加者30人。
- 参加費及び物販にて約13万円分の地域産品を提供。
- イベント参加者のうち2名が後続の木こりワーケーションに参加。

参加者や地域の声

- 参加者からは、能登半島地震以降の現在の状況と併せて、能登の里山を守るために活動するGOENの姿勢に惹かれた旨のフィードバックがあった。

得られた気づきや知見

- オフィスワークが中心の都市部人材に対して、GOENの業務内容や仕事に向き合う姿勢は非常に新鮮に受け止められたので、相互に刺激しあう関係を構築できる可能性を再認識した。



情報発信イベントPRカバー画像



情報発信イベントの様子



木こりワーケーションの様子



木こりワーケーションの様子

2. 木こりワーケーションの実施

概要

- 2024年9月7～9日、11月14～16日に能登町内で木こりワーケーションを開催した。
- 木こり衆の作業を身近に体験するとともに、彼らの作業の支援を行うことで五感で能登町を感じるプログラムを提供した。

成果

- 参加者：第1回：5人／第2回：3名
- 事後アンケート：満足度92%（7名中6名が90点以上）

参加者や地域の声

- 参加者からは、林業の現場を体験することで、森林管理の重要性や木こりの役割を実感できたと同時に、地域の地域の方々の熱意や歴史を感じ、当事者意識を持って能登に関わり続けたいとの声が寄せられた。

得られた気づきや知見

- 参加者にとって有意義な事業とするには、事前のインプットを丁寧に行うことで体験の意義を明確にし、交流の場をより充実させることが重要だったと認識した。
- 今回は関係人口創出のために個人向けの企画で実施したが、「森づくりは組織づくり」との声があり、企業向けのリーダーシップやチームワークの学びにもつながる気づきを得た。

1. 取組の自立・自走化を図る上での課題

- 事業を持続させていく上での課題として、「都市部人材向けの提供価値の明確化」と「地域側の受入メリットの確保」の両輪をより強固にしていく必要性を感じた。都市部人材にとって地域を訪問し貢献活動を行うことで得られる効果が高い満足感を感じてもらえることは本事業を確信できたが、それを事前にどのような形で発信するべきなのか、その“言語化”をより突き詰めて検討していく必要性を感じた。あわせて地域側の受入メリットについても、本事業内では重点的に地域側のコミュニケーションを取りながら実施したので地域側からも意義のある取組だったが、継続していく中での負担は今後発生してくる可能性があるためその点は注視していく。
- 事業の自走化を図るためには、本事業での実施内容では小規模で濃密なプログラムを提供しているために交通費等の外部コスト率が高い現状にあるため、より収支を安定させるための収益モデルの検討などの事業計画の検討を行っていきたい。また関係人口創出は入り口であるため、取組を通して関係人口になった人材が地域のために自主的に活動していく“広がり”も経年で追っていきたい。

2. 次年度以降の事業展開

- 今年度事業の成果としてプログラムとして高い満足度を得てもらえることを確認できたので、来年度は毎月1回のペースで訪問プログラムを実施する方向で検討を行っている。その上で、以下の点で取組をアップデートしていく。
 - ① 世界農業遺産／一次産業、を入り口として能登の暮らしや文化（祭り）との繋がり機会を増やし、より深い部分で能登に共感する関係人口を創出する。
 - ② 地域を訪問した際だけでなく普段から能登に触れてもらう機会や、企業として能登と関係を構築する取組を展開して事業領域や収益モデルを拡大する。

2025年度活動予定	
4月18日～20日 アテ枝の結束作業	8月22日～24日 アテ森づくり作業
5月23日～25日 アテ束の乾燥作業	9月12日～14日 アテ森づくり作業
6月20日～22日 松明組み上げ作業	11月14日～16日 アテ森づくり作業
7月4～5日 あばね祭り当日	長期的なアテ伐採の環境整備

3. 自立・自走化に向けた収支計画の概略

- 令和7年度は、自主事業として参加型ビジネスとして関係人口創出事業として地域のために展開しながら、この事業を入り口に外部ネットワークを構築して能登の林業に対する企業のスポンサー制度や個人サポーター制度等を構築して、地域に資金が集まるサイクルを検討する。
- 令和8年度以降は、展開事業を通して能登の林業に集まる資金を地域内で森づくりや能登の里山里海の文化継承の事業や企画も地域と連携して複数創出することを目指す。

	費目	R 7	R 8	R 9
支出	人件費	600千円	900千円	1,200千円
	企画費	1,200千円	1,900千円	2,800千円
	広告費		300千円	300千円
収入	イベント参加料	1,800千円	1,800千円	1,800千円
	スポンサー制度	－	1,300千円	2,500千円